



Compressor 4.1 への移行

ホワイトペーパー

2013 年 12 月

目次

3	はじめに
4	新しいインターフェイス
	現在ビュー
	アクティブビュー
	完了ビュー
6	基本的なエンコードワークフロー
8	書き出し先
11	分散トランスコード

はじめに

Compressor 4.1 では、新しい改善されたインターフェイスが採用され、以前のバージョンの Compressor と比較してさまざまな点でワークフローが強化されています。本書は、トランスクードワークフローの主な要素にそった構成になっており、Compressor 4.0.7 アプリケーションと比較しながら、Compressor 4.1 で重要なタスクを実行する方法について説明しています。

新しいインターフェイス

Compressor 4.1 のインターフェイスには、Final Cut Pro X や Motion 5 と共に黒みがかった無彩色の背景が採用されているため、色の認知が向上し、メディアに集中できるようになっています。



現在ビュー

「現在」ビューは Compressor のデフォルトのビューです。トランスクードジョブの準備、プレビュー、送信はこのビューで行います。Compressor を最初に起動すると、「現在」ビューには以下の 2 つの基本領域が表示されます。

プレビュー領域：インターフェイスの上半分を占め、トランスクード後にメディアファイルの映像とサウンドがどのようになるかをプレビューするためのビューア。

バッチ領域：プレビュー領域の下の領域。トランスクードするメディアソースファイルをここに追加します。

「現在」ビューの左側と右側を拡張して別の領域を表示することもできます。

「設定」および「場所」パネル：Compressor ウィンドウの左上隅にある「設定と場所」ボタンをクリックすると、インターフェイスの左側にこの領域が表示されます。「設定」パネルには内蔵およびカスタムのトランスクード設定が表示され、すばやくアクセスすることができます。同様に、「場所」パネルでは、内蔵の保存場所およびユーザが作成したカスタムの保存場所にすばやくアクセスできます。

「インスペクタ」パネル：Compressor ウィンドウの右上隅にある「インスペクタ」ボタンをクリックすると、インターフェイスの右側にこの領域が表示されます。「設定」パネル、「場所」パネル、またはバッチ領域で項目を選択すると、「インスペクタ」パネルにその項目に関する情報が表示され、詳細なオプションや機能にアクセスできます。

アクティブビュー

インターフェイス上部の「アクティブ」ボタンをクリックすると、「アクティブ」ビューに切り替わります。「アクティブ」ビューにすると、Compressor ウィンドウには現在トランスクードを実行中のバッチ（およびその構成ジョブ）に関するステータス情報が表示されます。このビューでは、トランスクード処理の進行状況の監視、一時停止、キャンセルをすることができます。

完了ビュー

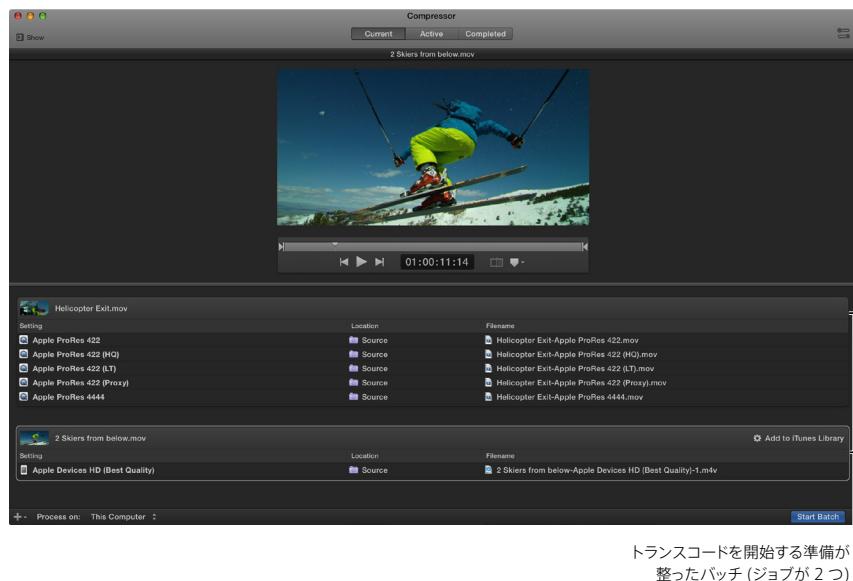
インターフェイス上部の「完了」ボタンをクリックすると、「完了」ビューに切り替わります。「完了」ビューにすると、Compressor ウィンドウにはトランスクードが正常に完了したバッチおよびジョブ、およびトランスクードに失敗したバッチおよびジョブの情報が表示されます。

バッチの横の詳細表示三角形をクリックすると、その構成ジョブと出力ファイルが表示されます。リストでバッチ、ジョブ、または出力ファイルを選択すると、「インスペクタ」パネルに詳細な情報が表示されます。

基本的なエンコードワークフロー

Compressor 4.1 のトランスコードワークフローは Compressor 4.0.7 のワークフローと類似しています。ただし、Compressor 4.0.7 で「書き出し先」と呼ばれていた出力ファイルの保存場所は、Compressor 4.1 では「場所」と呼ばれます。

さらに、Compressor 4.1 の「書き出し先」という用語はエンコード手順に加えてトランスコード後のアクション (DVD ディスクへの書き込みや YouTube などのビデオ共有 Web サイトへのアップロードなど) を含むある種のトランスコード設定を指します。



Compressor 4.1 でソースメディアファイルをバッチでトランスクードする

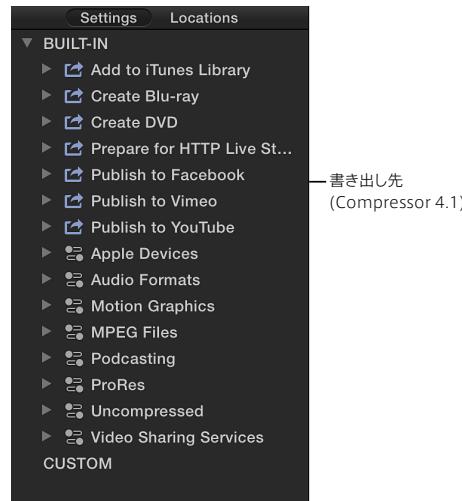
1. バッチ領域で「ファイルを追加」ボタンをクリックします。
2. 表示されるファイルウインドウで、ソースメディアファイルを選択して「追加」をクリックします。
3. 表示される設定ウインドウで以下を実行します。
 - リストから 1 つ以上のトランスクード設定を選択します。
基本設定  ではトランスクードの指定が適用され、書き出し先  ではエンコードの指定とトランスクード後のアクション (Vimeo へのアップロードなど) が適用されます。
 - ポップアップメニューで保存場所を選択します。
4. 設定と保存場所の選択が完了したら「OK」をクリックします。
バッチ領域に、新規ジョブのソースファイルのサムネールとトランスクード出力の指定内容 (設定、場所、ファイル名) が表示されます。
5. 別のジョブを追加するには、バッチエリアの下にある「追加」ポップアップメニュー  で「ファイルを追加」を選択し、表示されるファイルウインドウで 1 つ以上のメディアファイルを選択して「追加」をクリックします。
選択したソースメディアファイルのそれぞれについて新規ジョブが作成されます。
6. 新規ジョブにトランスクード情報を追加するには、サムネールの下の「出力を追加」ボタンをクリックし、表示されるウインドウで設定および場所を適用して「OK」をクリックします。
または、(Compressor ウィンドウの左側にある)「設定」パネルから設定または書き出し先をジョブにドラッグすることもできます。
7. 「バッチを開始」をクリックしてバッチ内のジョブをトランスクードします。
トランスクードが開始すると Compressor ウィンドウは「アクティブ」ビューに切り替わり、トランスクード処理の状況を確認することができます。

書き出し先

Compressor 4.1 の書き出し先は、トランスコードの指示とトランスコード後のアクション (DVD ディスクへの書き込みや YouTube または Vimeo などのビデオ共有 Web サイトへのアップロード) を組み合わせた設定を指します。内蔵の多くの書き出し先 (「設定」パネルに表示され、 アイコンが目印) の中から選択することも、カスタムのトランスコードタスク用に独自の書き出し先を作成することもできます。



Compressor 4.1 の書き出し先は、Compressor 4.0 のバッチテンプレートで以前利用できた機能の多くをそのまま継承しています。



「設定」パネルでは以下の内蔵の書き出し先が利用できます。

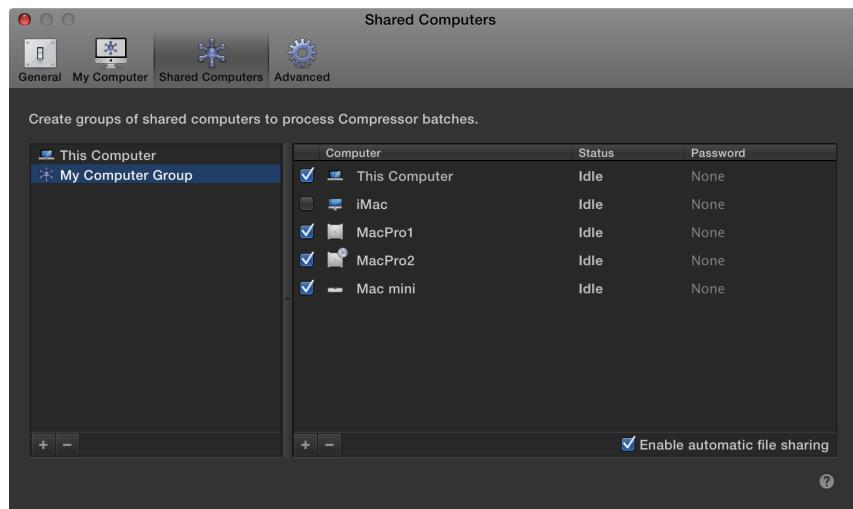
内蔵の書き出し先	内容	用途
iTunes ライブラリへ追加	設定： • Apple デバイス HD (最高品質) ジョブアクション： • iTunes ライブラリへ追加	Apple デバイスと互換性のある H.264 ファイルを作成し、そのファイルを自動的に iTunes ライブラリに追加します。
Blu-ray を作成	設定： • Dolby Digital • H.264 (Blu-ray 用) ジョブアクション： • Blu-ray ディスクを作成	H.264 エレメンタリストリームおよび Dolby Digital オーディオファイルを作成し、作成したファイルを DVD に自動的に書き込みます。
DVD を作成	設定： • Dolby Digital • MPEG-2 (DVD 用) ジョブアクション： • DVD を作成	MPEG-2 エレメンタリストリームおよび Dolby Digital オーディオファイルを作成し、作成したファイルを DVD に自動的に書き込みます。
HTTP ライブストリーミングを準備	設定： • HTTP ライブストリーミング用 オーディオ • ブロードバンド (高速) • ブロードバンド (低速) • セルラー (高速) • セルラー (低速) • Wi-Fi (高速) • Wi-Fi (低速) ジョブアクション： • HTTP ライブストリーミングを準備	MPEG-4 ファイルのセットを作成し、そのファイルを指定のサーバに自動的にアップロードします。このファイルは、H.264 エンコードされたビデオを含む MPEG-4 ファイルを再生できるデバイス (スマートフォンなど) と互換性があります。
Facebook に公開	設定： • HD 720p ジョブアクション： • Facebook に公開	H.264 ファイルを作成し、そのファイルを自動的に Facebook アカウントに公開します。
Vimeo に公開	設定： • HD 720p ジョブアクション： • Vimeo に公開	H.264 ファイルを作成し、そのファイルを自動的に Vimeo アカウントに公開します。
YouTube に公開	設定： • HD 720p ジョブアクション： • YouTube に公開	H.264 ファイルを作成し、そのファイルを自動的に YouTube アカウントに公開します。

分散トランスコード

Compressor 4.1 は分散処理 (複数のコンピュータまたはコンピュータプロセッサの間でトランスコード処理を共有すること) を簡素化します。

Compressor 4.0 で「クラスタ」と呼ばれていた機能は、現在はコンピュータの「グループ」と呼ばれます。コンピュータのグループを構成し、分散処理を設定するには、コンピュータへのアクセスを有効にして共有コンピュータのセットを作成します。ネットワーク上のコンピュータが見つからない場合は、手動でコンピュータリストに追加することもできます。

注意 : Compressor 4.1 は、ほかのアプリケーションのための分散レンダリングをサポートしていません。



ネットワーク上のほかのコンピュータが自分のコンピュータを利用できるようにする

1. 「Compressor」>「環境設定」を選択します。
 2. 「自分のコンピュータ」を選択します。
 3. 必要に応じて、「ほかのコンピュータが自分のコンピュータ上でバッチを処理することを許可します。」を「入」にします。
 4. 自分のコンピュータへのアクセスをコントロールするには、「パスワードを要求」チェックボックスを選択してテキストフィールドにパスワードを入力します。
- これにより、ほかのユーザがこのコンピュータを分散処理グループに追加したい場合は、最初にこのパスワードで認証される必要があります。

共有コンピュータのグループを作成する

自分のコンピュータがほかのコンピュータから利用できるようにしたら、自分のバッチをトランスコードする共有コンピュータのグループを作成できます。

1. 「Compressor」>「環境設定」を選択します。
 2. 「共有コンピュータ」を選択します。
 3. 左側の共有コンピュータのリストの下部にある「追加」ボタン  をクリックします。
 4. 新しい「名称未設定」グループがリストに追加されます。
 5. 「名称未設定」グループをダブルクリックして選択し、グループの新しい名前を入力します。
 6. 利用可能なコンピュータのリスト(右側)で、グループに追加するコンピュータの横のチェックボックスを選択します。
- コンピュータのリストにコンピュータが表示されない場合は、コンピュータの IP アドレスでコンピュータを追加できます。
- 重要:Xsan ファイルサーバを使用する場合は、Compressor 環境設定の「共有コンピュータ」パネルの「自動ファイル共有を有効にする」の選択を解除します。これにより、トランスコードされたファイルが各ノードに不必要にコピーされるのを防ぐことができます。分散トランスコードセッションを正常に完了するには、ジョブの送信元のコンピュータは、Compressor を起動した状態でネットワークに接続したままにしておく必要があります。

共有コンピュータのグループを削除する

- Compressor 環境設定の「共有コンピュータ」パネルで、左側のリストからグループを選択して削除ボタン  をクリックします。

コンピュータのグループを使ってジョブをトランスコードする

- Compressor ウィンドウの左下にある「Process With」メニューからグループを選択し、次に「バッチを開始」をクリックします。